

## 第 28 回議会報告会 報告書

地域名	関宮地域		
年月日	令和 7 年 10 月 28 日 (火)	会場名	関宮公民館
開始時間	19 時 30 分	終了時間	21 時 00 分
参加数	男性 10 人	女性 0 人	合計 10 人
班 長	石本 毅	司会者	石本 毅
報告者	石本 毅	書記	石本 毅
班員名	石本 毅、北山 愛、西垣 司、谷垣 満		
	市 民	対 応	
報告に対する質疑	<p>① 9 月議会で障がい者に関する一般質問に関し、グループホームについて市は「相談があれば国県の補助金を紹介する」と答えていたが、市独自の補助金が少ないように思う。市の単独補助金にも目を向けてほしい。</p>	<p>① 市の単独予算については、限られた予算ではあるが、工夫できる余地があろう。場合によっては国・県に訴えないといけないかもしれない。皆さんと一緒に考えていきたい。</p>	
	<p>② 地域計画を作成した農業者に対する農業機械購入の補助金（1/2 補助）が来年度から廃止されると聞いた。高齢化が進む中、機械が壊れたら農業をやめる人が多い。補助金があれば継続する意欲も出るので、耕作放棄地を増やさないためにも制度を継続してほしい。</p>	<p>② 市の回答では財源の関係で来年度以降は考えていないとのこと。令和 6 年度は 36 件の利用があり、令和 7 年度も増えている。個人の農業機械への支援は全国的に珍しく、養父市としてはかなり踏み込んだ支援だった。今後は規模を小さくしたり、中古機械の活用なども検討し、農地維持のための仕組みを考えていく必要がある。議会としても農業機械の買い替えがネックであることを認識しており、引き続き取り組んでいく。</p>	
	<p>③ 朝来市議会が定数削減して選挙を行ったと聞いた。養父市議会は定数を削減しない方針と聞いているが、今後もその方針を維持するのか。朝来市の動きをきっかけに市民の間で議論が再燃するのではないか。</p>	<p>③ 議会改革の中で議員報酬と議員定数は重要な検討事項である。議会基本条例では定数と報酬について協議することになっている。人口減少に応じた定数削減という視点だけでなく、議会審議に必要な最低限の人数という観点も重要。定数削減が議会改革ではないという指摘もあり、役に立つ議会のあり方を考える。</p>	

市 民		対 応
意見交換会 での質疑	④ 人口減少・少子高齢化が課題だが、養父市は他の市町村と比べてどのような特徴があるのか。若者が移住したいと思えるような政策が必要ではないか。住宅購入・改築の補助金の年齢制限を上げるなど、受け皿づくりを充実させてほしい。	④ 養父市の子育て支援は充実しており、こども園の無償化、高校3年生までの医療費無償化、給食費の補助など、子育てしやすいまちとして認識されているが、宣伝が弱い面がある。移住者の多くは有機農業者であり、環境に優しいまち、有機に特化した養父市として売り出すことも考えられる。移住定住の補助金に年齢制限があることは課題で、40～50代の方への支援も検討する必要はあろう。
	⑤ 関宮の小さな拠点について、工事が始まっているが周知はあまりされていない。説明会も参加者が少なく、旧関宮町内でも関心が薄い。若者の居場所づくりとして機能させるためにはどうすればよいか。また、中に入る店舗や管理運営体制が決まっていないことに不安がある。さらに、デマンド交通の実証実験では旧関宮町内を4つのエリアに分けており、移動コストが高くなる問題がある。	⑤ 関宮小さな拠点の存在をよく知らない人も多く、「関宮の施設」「高齢者向け」と思われていることもある。若者の居場所が欲しいという声は高校生との意見交換会でも多く出ており、子育て世代も集える拠点にしたい。議会では、関宮小さな拠点に関する特別委員会を設置した。今後、特別委員会を開催し、進捗状況や要望書への対応を確認する予定。監査委員からも情報提供不足の指摘がある。議会としても市民との意見交換の機会を積極的に持っていく。デマンド交通については、エリア区分や料金設定に検討の余地があろう。
市 民		対 応
その他	なし	
備考 なし		

議会報告会を実施したので、上記のとおり報告いたします。

令和7年11月18日

報告者 2班 班長 石本 毅